

## 【大会会場図】



## 【大会会場の駐車場について】

- ・当日は他の利用者の方もいらっしゃるので、大会に終日参加される方は、消防局側臨時駐車場（25 台）をご利用ください。
- ・駐車場は 9 時から利用可能です ※開館は 9 時 30 分
- ・途中から参加、もしくは途中で帰る予定の方は、通常駐車場を利用してください。
- ・安全な駐車のため駐車場係の指示に従って駐車をお願いします。

## 【鹿昆忘年会】もちろん今年もやります！奮ってご参加ください！

開会:11/21（土）18:00～ ※鹿昆大会当日の夜です

会費：4,500 円

会場:ホテルユニオン(鹿児島中央駅西口近く) 鹿児島市西田 2-12-34 電話 099-253-5800

※会場予約のため、11 月 8 日（月）までに、お名前・人数を下記までご連絡下さい。

長田聖哉(Nagata Seiya)    seiya.dragonfly@gmail.com

＜感染症対策 ～各自の責任でお願いします～＞

- 1) 当日、発熱等の症状がある場合、参加を自粛していただきますようお願いいたします。
- 2) お茶等は準備しません。水分は各自でご準備ください。

# 鹿児島昆虫同好会

## 2026年大会



「奄美大島のハマコオロギ」

2026年9月22日，奄美市名瀬小湊(イスビラ海岸)，金井 賢一 撮影

<表紙写真コメント>

奄美大島の砂浜を 30 ヶ所以上巡って，やっとハマコオロギに出会えました。防波堤のある海岸が激増しており，奄美の海浜性昆虫にとって苦難の時期と思い知りました。

期日：2026年11月21日(土) 10時15分～15時30分

会場：かごしま環境未来館（多目的ホール・研修室）

## 2026年 鹿昆大会 プログラム

9:30～ 会場設営（お手伝いいただける方はお願いします）

10:00～10:15 受付 会費納入や記帳をお願いします。※会費納入は昼食時間にもできます。

### 【午前の部】

10:15～10:25 開会の挨拶 会長：二町一成

10:25～10:45 「ツクツクボウシの屋久島タイプ域で見つかった本土タイプについて」

小溝 克己（錦江湾高校）

屋久島周辺の5島のツクツクボウシの鳴き声は後半の「ウィーヨーシ」を欠く「屋久島タイプ」であることが知られている。しかし2024年、屋久島タイプのみが生息しているはずの三島村黒島で、本土タイプのような鳴き方の個体が確認された。その正体やいかに。

10:45～11:05 「手軽に増やして研究を進める！ソテツシロカイガラムシの簡易的なソテツ切片飼育法」

長田 聖哉（鹿児島大）

各地でソテツを枯死させ問題となっている大害虫ソテツシロカイガラムシについて、切り葉を用いた簡便な室内飼育システムと論文内容を解説します。ソテツやカイガラムシの基本について触れたのち、従来の手法に比べ省スペース・低コストで均一な個体群を維持できる本手法のポイントや、温度反応試験・天敵利用といった各種実験への応用可能性について紹介します。

11:05～11:15 休憩・換気

11:15～11:35 「カメムシの子育て」

芝 敏晃（鹿児島市）

一部のカメムシは、母親が卵や幼虫の世話（子育て（保育））をする。2026年にベニツチカメムシとアカギカメムシに出会い、子育ての一部を観察したので報告する。

11:35～12:05 「アサギマダラはなぜ旅をするのか？」

福田 晴夫（鹿児島市）

1980年に鹿昆で始めたマーキング調査は、瞬間に普及し、今や出発地と到着地の記録により、移動範囲や時期が明らかになった。しかし、最後の問題「なぜ、こんな移動をするようになったか」の答えはない。演者はこれに挑戦する。キーワードは“照葉樹林”だ。

12:05～13:20 記念写真撮影・昼食・休憩・展示見学・頒布会

### 【午後の部】

13:20～13:35 鹿昆大賞 表彰式・受賞コメント

一般の部：林 悦子氏：「身近な昆虫の記録を取り続け、発表する姿勢」

蛾類の幼虫期や食草の新発見など、身近な現象の記録・発表を継続する姿勢を高く評価。

高校生以下の部：肥後雄大氏：「奄美大島のウラナミシロチョウに関する研究」

ウラナミシロチョウを奄美大島で調査。SATSUMAへの投稿、例会発表等の姿勢を高く評価。

13:35～13:55 「奄美大島の海岸事情とハマコオロギ」

金井 賢一（錦江湾高校）

平成28年に改訂された鹿児島県レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類にランクされたハマコオロギは、奄美大島以南に分布する。砂礫の浜に生息するが、環境の変化に敏感に反応すると思われる。2026年9月に奄美大島の砂浜を広く観察してきた結果とともに紹介する。

13:55～14:15 「続・湧水町カシワ林のシロオビアオシャクについて」 二町 一成(いちき串木野市)

シロオビアオシャク(*Geometra sponsaria*)は、2011 年発刊の日本産蛾類標準図鑑(Ⅰ)においては、国内では北海道・本州・九州(鹿児島県)・対馬に分布しているされている。演者は 2024 年 5 月、同種 1♂を湧水町のカシワ林にて初採集。2026 年も 2♀を採集した。過去にも大坪博文氏、福田輝彦氏による少数の記録だけである。前報では当初は九州の九重や阿蘇では記録がなく、チョウ類のウスイロオナガシジミ(*Antigius butleri*)の国内分布と対馬を除けば一致していることが気になった。その後、大分県内で記録があることが判明し、今回それらを報告したい。

14:15～14:35 「シジミチョウ科幼虫から得られた寄生蜂と寄生蠅」 中林 ゆい(鹿児島大)

シジミチョウ科を中心とした種間相互作用の研究をする中で、なかば趣味的にシジミチョウ科幼虫の寄生蜂や寄生蠅を集めてきました。本講演では、シジミチョウ科幼虫の寄生者相とともにこれらの生態情報を含めてご紹介します。

14:35～14:55 「鹿児島県のオキナワスジボタルはどこから来たのか？」 錦江湾高校 ホタル班

2026 年秋の調査をもとに国内移入種であるオキナワスジボタルの生息状況について報告するとともに、分布拡大の要因について考察する。また DNA 解析結果から分かった県内の DNA タイプ構成や系統樹からその来歴について考察する。

14:55～15:10 「鹿児島県産昆虫目録の刊行」 ○幾留 秀一・山根 正気(鹿児島市)

鹿児島昆虫相調査会は、『鹿児島県産昆虫目録』の刊行を目標に 5 年前に発足しました。この度、当初の予定通り約 800 ページの目録を本年 12 月中旬に刊行できることが確定しました。そのご報告と紹介をさせていただきます。

15:10～15:20 鹿昆 10 大ニュース 2026, 15:20～15:25 事務連絡

15:25～15:30 閉会の挨拶 副会長：熊谷 信晴, 15:30～ 後片付け, 16:00 戸締り完了

《係分担》【設営・看板・準備】江平・大坪・小溝・小宮・新倉・中峯(浩)・中峯(敦)・二町・若松  
【受付・会費】金井・江平 【SATSUMA 配布】中峯(浩)・中峯(敦) 【機材搬入・操作】小溝・新倉  
【司会・進行】金井・新倉 【写真】大坪 【記録・アルボ報告】新倉・小溝  
【頒布会】若松・熊谷 【駐車場】長田・市丸 【忘年会】二町・長田

《標本展示・頒布会》※バザーは実施しません。

標本箱や写真を持ち寄り、虫談義に花を咲かせましょう。

昆虫関係の本、採集道具、標本道具、蝶の食草等、提供できるものがあれば当日お持ち寄り下さい。資料や道具の有効なリサイクルと会員の活動の活性化のため、ご協力をお願いします。

福田晴夫氏の古書等や、会員から寄贈の採集道具(ほぼ新品)を安価で販売します。

《注意》1) 展示にご協力いただける方は、できるだけ 9:30 までにお持ち寄り下さい。

2) パソコン・プロジェクター等を使用される方は、受付後すぐにデータを機材係にお渡し下さい。パソコンは係が準備します。その場で一緒に動作の確認をお願いします。念のため、可能ならばご自分の PC もご準備ください。

3) 発表時間は質疑応答・交替を含む時間です。スムーズな進行にご協力をお願いします。

4) 配付資料は 9:30 までに受付に提出してください。または講演前に適宜配布してください。

5) 当日は、受付にて年会費(3000 円)も受け付けます(金井)。